

肝細胞癌の最近の治療 第三内科 田尻和人

肝細胞癌を取り巻く環境は大きく変わってきています。まずはわが国の肝細胞癌の最大の原因であったC型肝炎ウイルスが治癒できるようになったことで、そのためもあり肝細胞癌の患者数は減少傾向にあります。その反面、肥満や糖尿病を背景とする肝細胞癌は増加傾向であり、ウイルス肝炎に比べスクリーニング体制が確立されていないこともあり、その拾い上げは重要な課題です。エコーやMRIなど診断技術の進歩に加え、わが国の肝細胞癌スクリーニング体制は世界の他の国々に比べ優れており、肝細胞癌がより早期に発見できるようになっています。また、治療法の進歩がここ数年飛躍的にみられています。これまでは肝細胞癌に対し有効な抗がん剤はほとんどありませんでしたが、近年分子標的薬が次々と登場し、また更に抗体薬や免疫チェックポイント阻害剤など有望な薬剤が登場予定です。肝細胞癌の治療成績、予後は年々改善しています。様々な治療の恩恵に預かるためにも、肝予備能の保持、体力の維持がとても大切であり、原因疾患の治療、生活習慣の維持・改善を行っていきましょう。